



山本助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

2018 年度独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

マンションと地域をつなぐ居場所づくり事業

事業報告書



2019年3月



特定非営利活動法人 ZERO キッズ

1. はじめに	1
2. 事業の背景と目的	2
3. 事業内容・実績	
1) 乳幼児親子の居場所「もりのいえ」の利用実績	2
2) 乳幼児親子の居場所としての「もりのいえ」運営	3
・利用のルールづくり	
子どもの名札 しおり	
・もりのいえの特徴	
木育 絵本 ZERO キッズの子どもたち	
・運営に関わる人たち	
スタッフと運営会議 講師 協力団体	
・地域とつなぐ広報活動	
広報活動 地域とのつながり	
3) 交流の仕掛け	6
・イベント一覧	
対象 目的 内容	
4. 事業成果	9
アンケートの実施結果	
5. 新たなニーズ・課題	10
6. まとめ	
7. 参考資料	
□資料1：もりのいえ利用のしおり	11
□資料2：赤ちゃんおはなし会	12
□資料3：歌って踊ってZEROキッズ（歌あそび・音あそび・表現あそび）	20
□資料4：スタッフマニュアル・防災防犯マニュアル	21
□資料5：つながりマップ・商店街マップ	31
□資料6：アンケート自由記述	32
□資料7：ちらし、写真など	37
□資料8：ZEROキッズのこれまでの歩み	41





山本助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉協賛助成事業

マンションと地域をつなぐ居場所づくり事業

～もりのいえ はじめの一步～

1. はじめに

中野区江古田の約39,500㎡の敷地に「多世代により育まれる持続可能な地域をつくる」をコンセプトにした「江古田の杜プロジェクト」は、積水ハウス、総合東京病院、UR都市開発機構の三者協働によるまちづくりが進められ、2018年9月にまちびらきが行われました。分譲マンション531戸、賃貸（子育て世帯向け263戸、高齢者向け（自立型サービス付き高齢者向け住宅）121戸、学生向け141戸）、さらに敷地内には介護付き有料老人ホーム、病院、コンビニ、保育園、学童クラブ、地域交流スペース「リブインラボ」があり、ここだけで新しい一つのまちと言えるほどの規模です。



向かい側には区内で最も大きな江古田の森公園があり、周辺には高齢者や障害者の施設、病院も多数ある地域です。

今回、私たちNPO法人ZEROキッズはこのマンションの中の「リブインラボ」という地域交流スペースの一部であるキッズルームと絵本ライブラリーの運営とエリアマネジメントを担うことになり、「もりのいえ」と名付けて活動を開始しました。新しい住民となった乳幼児親子と地域をどうやって繋げていくかが大きな課題であり、私たちにとっては初めての固定した日常的な居場所づくりに挑戦しました。

「コドモイデコロのある街」

こどもたちが健やかに成長し、多世代がいきいきと交流する街



2. 事業の背景と目的

現在、都心部のマンションにはファミリー層の居住が増えてきていますが、中野区では子育て世代の区外転出が多くみられます。また若いファミリー層と古くから居住する地域住民や町会がお互いにご近所の交流の機会を持つことが少なく、子育て世代が地域コミュニティに溶け込むことができない現状もあります。大規模なマンションにはキッズルームなどのスペースも設けられますが、住民の管理費から運営されるため、そのほとんどが、マンションの居住者のみが利用できるスペースとなっています。マンションに住む若いファミリー層を地域とつなげることで地域コミュニティを活性化させ、子どもたちに「ふるさと」と呼べる場所、地域の記憶を残していきたいものです。災害に対しても最も必要な備えは人のつながりであり、犯罪の抑止力となるのも人のつながりです。そのつながりを作るためには、住民と様々な団体、地縁コミュニティ、行政をつなぎサポートする新しい中間支援の組織と仕掛け、場が必要です。

3. 事業内容・実績

1) 乳幼児親子の居場所「もりのいえ」の利用実績

実施期間：2018年10月1日（月）開始～2019年3月31日（日） 計148日開催

水曜日を除く毎日10：00～18：00

常駐スタッフ：1日2名（スタッフ数 理事含め8名）

登録家庭数：276家庭（2018年10月1日～2019年3月31日）

内訳 当マンション81家庭・地域195家庭

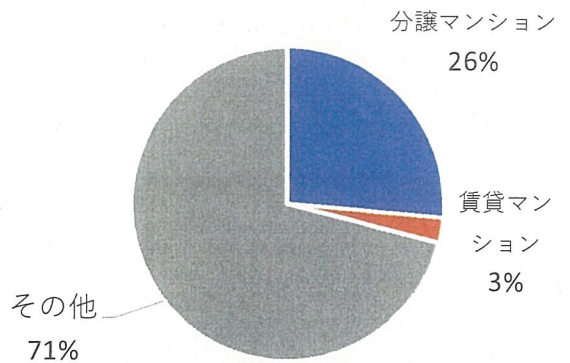
利用者数：7084人

		大人	子ども	開館日数
10月	1216人	661人	555人	26日
11月	1138人	579人	559人	25日
12月	1057人	530人	527人	24日
1月	1041人	522人	519人	24日
2月	1218人	617人	601人	24日
3月	1414人	700人	714人	25日
合計	7084人	3609人	3475人	148日

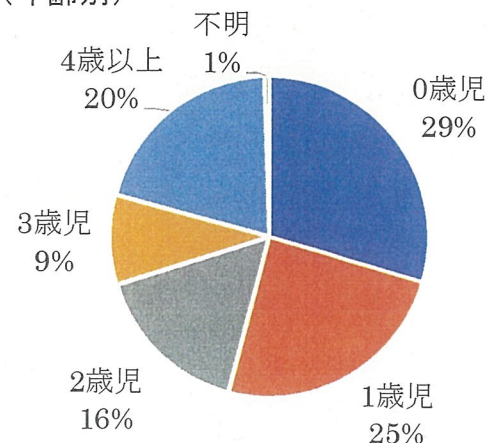
「もりのいえ」は、地域にも開いた乳幼児親子の居場所としてSNSや口コミで広がったため、地域の家庭の利用登録はたいへん多くなり、3割がマンション居住者、7割が近隣地域です。利用する子どもの年齢は、0～2歳が7割です。

閉館日を水曜日とし、一般的に休みの土曜日日曜日に開館し、また児童館や図書館が休みの月曜に開いたことや、夕方6時まで開いていることから、母親だけでなく父親や家族での利用、保育園帰りの一遊びの利用も多くあり、夕方5時過ぎに来て6時まで遊ぶ親子も多くあります。

利用者(登録者)の属性
(地域別)



(年齢別)



2) 乳幼児親子の居場所としての「もりのいえ」運営

<利用のルールづくり>

登録制: 運営会議やスタッフ会議で検討を重ねて乳幼児親子に安心して利用してもらうために、利用は登録制にしました。初回はお試し利用をしていただき、次回からは登録票に記入して利用します。登録票には、子どもの名前、年齢、保護者氏名、連絡先、緊急時の保護者以外の連絡先を記入してもらい、スタッフが厳重に管理します。

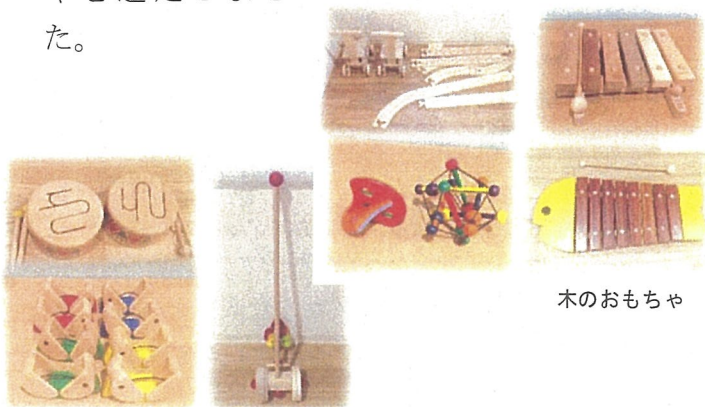
子どもの名札: 登録した利用者には名札（スタッフ手作りの葉っぱの形）を作り、入館時につけてもらい、退館時に返却してもらいます。この名札（写真）はとても好評で、子どもが自分からつけたがりました。スタッフがいる受付の後ろの壁に貼った名札はどんどん増えていきましたが、3月には壁いっぱいになり探すのが大変になったので、登録票と一緒に保管する形に変更しました。

しおり: 利用者に説明するためのしおりを作成しました。初めて利用する方にはスタッフがしおりにそって説明をしながら館内を案内します。（資料1）

利用料: マンション居住者は、管理費と一緒にリブインラボ協議会費（月300円）を収めているので、地域の方が利用する場合は登録をしてもらい、月300円の利用料をもらうことにしました。（この利用料はリブインラボ協議会に入金するため、当会の収入にはなりません。）

<もりのいえの特徴>

木育: おもちゃの選定や室内の整備にあたり、「木育」を意識しました。木育は平成16年9月に北海道で発足した「木育プロジェクト」から提案された新たな教育です。その理念は、子どもをはじめとするすべての人々が『木とふれあい、木に学び、木と生きる』取り組みであり、子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことです。木のおもちゃはぬくもりがあり、子どもの手に優しく、想像力や創造性を育むきっかけにもなります。すぐ近くに「江古田の森公園」という中野区では一番大きな自然豊かな公園もある環境の中で、自然の大切さを感じて育ててほしいという願いをこめて、東京おもちゃ美術館のアドバイザーにも相談をしておもちゃを選定しました。



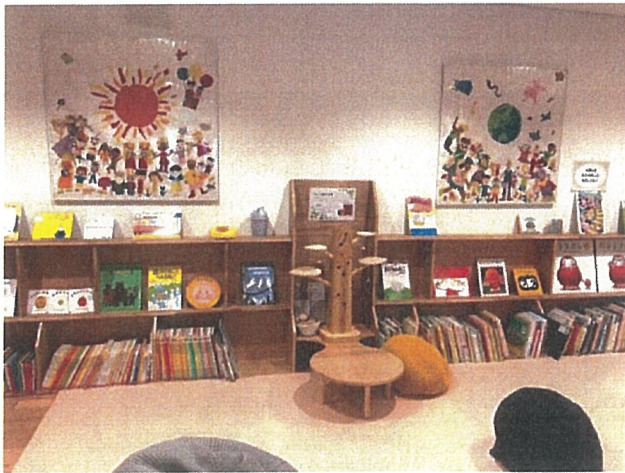
木のおもちゃ




壁面の大きな木に名札の葉っぱ



室内の装飾は小学生や親子の手作り



絵本：中野区在住であった故もりひさし氏からいただいた絵本で「もりひさし絵本文庫」を作りました。101歳で永眠されたもりひさし氏は、子どもたちに大人気の「はらぺこあおむし」の訳者として有名ですが、「こぐまちゃん絵本シリーズ」など日本の子どもの絵本の創世記に関わり、子どものための絵本を作り続けた方です。エリックカールやガブリエルバンサン翻訳絵本、「ちいさなきいろいかさ」「くまさぶろう」などのもり氏の創作絵本の他、蔵書は500冊以上あります。親子で絵本が選びやすいように、表紙がみえる本棚、ゆったりと親子で絵本を楽しめる空間をダンボールを使って試作し、それを元に木の本棚を作りました。NPO 法人げんきな図書館の司書の皆さんの協力で分類し、毎週月曜日には「赤ちゃんおはなし会」を実施しています。参加の子どもが0歳～2歳児が多いため、読み聞かせは難しく、手遊びやからだ遊び、わらべうたを交えながら、親子で楽しめる内容を工夫しています。絵本についての個別の質問等にも対応しています。(資料2)



もりひさし
絵本作家、児童文学者

子どもたちが大好きな「はらぺこあおむし」などエリックカールの作品の訳の他、「ちいさなきいろいかさ」や「たっちゃんのがくつ」、「こぐまちゃんシリーズ」など、やさしく美しい日本語でたくさんの絵本を生み出しました。長年、中野区に在住、中野区教育委員も務めました。

2018年11月9日、101歳で永眠されました。

ZERO キッズの子どもたち：毎週日曜日は、4歳～中学生くらいを対象に、歌やダンス、造形等の表現活動をしたり、自然体験活動に参加したりしています。以前から活動に参加している子どもに加えて、江古田の地域の子どものマンションに住む子どもが参加するようになりました。乳幼児親子だけでなく小中学生の異年齢の活動があるというのは強みであり、長年続けてきた活動があるからです。学校や年齢の違うことで、子どもたちにとっては第三の居場所となり、年長の子どもが年少の子どもを自然にサポートしながらも上下関係のない仲間ができています。また日頃の活動を活かしてプロの音楽家と一緒に地域交流のコンサートに参加し、会場を和ませたり、交流の役割を果たしています。子どもたちにとってもプロの音楽家と一緒に歌う機会は貴重な経験となり、モチベーションがあがります。卒業した先輩もイベント時には手伝いに来ています。(資料3)



クリスマスコンサートで歌う子どもたち

<運営に関わる人たち>

スタッフと運営会議：6月から運営会議を行い、どんな居場所にするか？何が必要か？どのように運営するか？親子にどう関わるか？等、アドバイザーを交えて学習しながら話し合っていました。居場所運営に関わるスタッフは20代から60代まで8人、経験も様々な、意欲にあふれた人たちです。セラピスト、ライター、高齢者会館のスタッフ、生涯学習サポーター、区民活動センターのスタッフ、社会福祉士と、メンバーがそれぞれの強みを活かしながら、時にぶつかりあいながら10月から実際の運営を行いました。スタッフの共通認識のためのスタッフマニュアル、安全管理マニュアル、清掃（衛生管理）マニュアル等も作成しました。（資料4）

講師：当会の25年の活動から蓄積した人脈から、音遊びや造形活動、コンサート、絵本、会場づくりなどの他、運営会議も含めて講師に関わってもらいました。今まで小学生中心だった活動なので、今回の対象が0.1.2歳児が中心であることに講師も当初は戸惑いもありましたが、スタッフや保護者へのアドバイスもしてもらいながら活動を進めることができました。

協力団体：「赤ちゃんおはなし会」にはNPO法人げんきな図書館、「音あそび」にはNPO法人音を楽しむONGAKUの会の協力を得ました。

<地域とつなぐ広報活動>

広報活動：ホームページは新しい居場所の広報のために新たなトップページから「もりのいえ」の紹介を新設（委託）、若手のスタッフがブログ、フェイスブック、ツイッターで随時情報発信しました。

「もりのいえ」の出来事だけでなく、地域のイベントや公共施設の情報、子育て支援関係の情報、商店街の情報なども取材して発信しています。それらの情報を紙ベースで貼る掲示板や、自由に取れるちらしラックも設置しました。マンション内にはデジタル掲示板があり、随時デジタル掲示板にも依頼して掲載しています。

ホームページ <https://www.zerokids.org/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/morinoie.egota/>

ブログ <https://egotamorinoie.hatenablog.com/>

ツイッター https://twitter.com/morinoie_egota

地域とのつながり：オープン前に江古田地域を知るためにスタッフでまち歩きをしました。区民活動センター、すこやか福祉センター、図書館、小学校、中学校などの公共施設の位置を確認したり、歴史民俗資料館や東京子ども図書館なども見学しました。オープン後に、地域の町会長や民生委員の集まる会議に挨拶に行き、その後はイベントのちらしを地域の掲示板に掲示したり、区民活動センターはじめ近隣施設に設置をお願いしたりしました。2月のフリーマーケットをきっかけに、スタッフが地元の商店街の取材を行い紹介マップを作成して、商店街とのつながりも築きつつあります。近隣地域には、高齢者施設や障害者施設も多くあります。社会福祉士の資格を持つスタッフが施設の地域連携室やまちなかサロンに足を運び、関係を築いています。

（資料5 つながりマップ、商店街紹介）



もりのいえと地域のお知らせを置いているちらしラック

3) 交流の仕掛け

利用者同士の交流や地域交流を生み出すために、交流イベントを企画し、実施しました。

もりのいえイベント・講座の企画の考え方

2019/3/2

II

こどもの視点から“つながり”を考える企画が最大の魅力に!!

こどもたちを通じて親や大人たちが経験・成長し、交流が広がる!



イベント一覧

<対象>

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳～	小学生	中学生～	保護者	シニア
赤ちゃんおはなし会	◎	◎	◎	◎	○			◎	
歌って踊ってZEROキッズ					○	◎	◎		
季節の工作				◎	◎	◎		◎	
音あそび	○	◎	◎	◎	◎			◎	
ママエクササイズ								◎	
パパもあそぼう	◎	◎	◎	◎	◎			◎	
子育てサロン								◎	
季節コンサート		○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎
防災講座								◎	
交流食事会					○	○		◎	◎
江古田散歩					○	○		◎	◎
シニア健康体操									◎

森の学級参加					◎	◎	◎	◎	◎
森のギャラリー				◎	◎	◎	◎	◎	◎
フリーマーケット								◎	◎

<目的>

	交流					学習	表現	健康	その他
	親子	同年齢	異年齢	多世代	仲間づくり				
赤ちゃんおはなし会	◎	○		○		◎			
歌って踊って ZERO キッズ		◎	◎	◎	◎	◎	◎		
季節の工作			○	○		◎	◎		
音あそび	◎	◎	○	○	◎	◎	◎		
ママストレッチ		◎			○			◎	母親支援
パパもあそぼう	◎			◎	◎	◎			父親支援
子育てサロン					◎	◎		◎	母親支援
季節コンサート				◎		◎	◎		地域交流
防災講座						◎			防災意識
交流食事会				◎	◎			◎	孤食の解消
江古田散歩						◎			自然、地域
シニア健康体操								◎	
森の学級参加				◎		◎			自然、地域
森のギャラリー							◎		地域交流
フリーマーケット				◎					地域交流

<内容>

	内容	指導者・協力者
赤ちゃんおはなし会 資料2	毎週月曜日 11時から 30分の絵本の読み聞かせと手遊び。絵本の紹介。10/1(月)～3/25(月) 25回	NPO 法人げんきな図書館メンバー
歌って踊って ZERO キッズ 資料3	日曜日の午前中、季節の歌を歌ったり、ダンスで楽しく身体を動かす。成果を活かしてコンサートにも参加。10/7(日)～3/31(日)	相原郁美(ピアニスト) 荒生ゆりか(ダンサー) ZERO キッズ OB, OG
季節の工作	親子で造形活動を行う。10/31 ハロウィンのランタン作り、12/2 クリスマスリース、1/20～3/15 バレンタインのハートのバッグ	太田富夫(造形作家) 広田左王子(ZERO キッズ OGの保護者)、スタッフ
音あそび	身近にあるものの音に気付く、聴く楽しさ、手作り楽器を作って親子で遊ぶ。既成のおもちゃでなくても遊べることも指導。	池田邦太郎・斉藤明子(NPO 法人音を楽しむ ONGAKU の会)

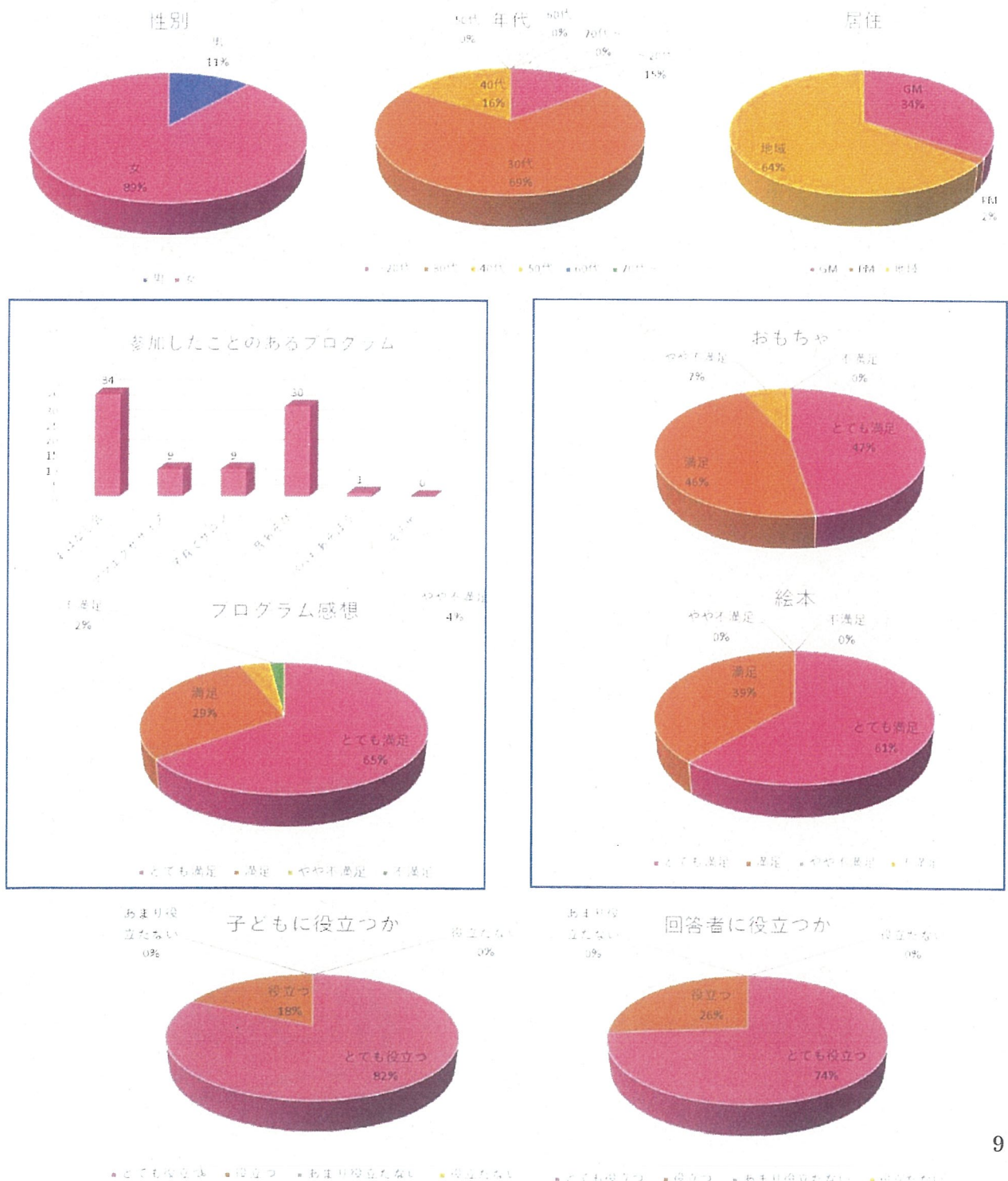
ママストレッチ &エクササイズ	子育て中のママたちの健康と美容、ストレス解消に30分程度の子どもも一緒にエクササイズ。	荒生ゆりか
パパもあそぼう	イクメンのパパたちに、童心にかえって子どもと遊ぶ方法を伝授。紙飛行機や紙鉄砲で遊ぶ。	池田邦太郎 斉藤明子
子育てサロン	第1回(2019.1/29)は子どもの健康トラブルとして、感染症の予防等について。第2回(2019.3/9)は乳幼児の救急法、AEDの使い方を学ぶ。	中野区北部すこやか福祉センター保健師 野方消防署・野方消防団
季節行事にちなんだコンサート	プロの演奏家がハロウィン、クリスマス、ひなまつり等季節感あふれるコンサートを行う。コンサートの一部に子どもたちも参加出演し交流。 10/14(日) 森の音楽会 10/31(水)ハロウィンナイト 12/24(月)クリスマスコンサート 1/12(土) 津軽三味線コンサート 3/3(日) ひなまつりコンサート	相原郁美(ピアノ)、荒生ゆりか(踊り)、鶴川勝也(バリトン)、山下尚子(ソプラノ)、村上敏明(テノール)、栗田真帆(メゾソプラノ)、富樫亜紀(チェロ)、早稲田大学津軽三味線愛好会三津巴、泰江静香(ZEROキッズOG)、都市楽師プロジェクト(中世古楽器)
日本文化体験	1/6(日) 百人一首 1/27(日) 和歌づくり 2/24(日) 香道体験	小林隆(伝承文化研究所) 多田紀子(香道、NPO日本文化体験交流塾)
防災講座	3/30(土) 3.11で被災した方のお話と支援活動として行っているマリンバの演奏、マンションの自衛防災組織の隊長の話と防災設備等の案内。	朝倉香絵(マリンバ奏者) 積和不動産
交流食事会	孤食の高齢者や親子に声をかけ、一緒に食事をし、顔見知りを増やす。2/8(金)、3/28(木)	スタッフ
江古田散歩	スタッフ研修として3回。2019.3月末にお花見マップの作成と、食事会の後の夜桜散歩。3/28(木)	スタッフ
シニア健康体操	高齢者の健康と体力維持のため、椅子に座ってできる体操を実施。10/26, 11/9. 23, 12/14. 28, 1/11. 25, 2/8. 22, 3/8. 22	セントラルスポーツ
森の学級参加	江古田の森で毎月1回行われている自然観察会に参加。11/18, 12/9, 3/17	主催: 森の学級
森のギャラリー	地域の子どもから大人までが作った作品「あいうえおみせ」を展示。	中村信子(地域学習協会)
フリーマーケット(マーケット&ライブ)	出展者を募集し、子ども服や不用品などを譲渡や売買した。途中ジャズコンサートも行い、鑑賞。 2/16(土)	愛田美樹(ジャズシンガー、) 金子雄太(オルガン)

4. 事業成果

始めてから6ヶ月という短い期間、試行錯誤の連続でしたが、もりのいえの利用者は毎月増えています（2頁利用者数参照）。276家庭が「もりのいえ」を利用し、毎日20～40組の親子が来館しています。新しい施設に当初は緊張もみられた親子が、次第に他の親子に積極的に話しかけるようになり、仲間が出来、自分たちの居場所としてくつろいでいる姿が見られます。マンションの新住民と地域住民の交流においては、子どもをきっかけにした自然な交流が行われています。

アンケートでは、おもちゃや絵本の充実が評価されています。保護者にとっても、子どもにとっても居場所として、交流の場として役立っていると多数が答えています。

□アンケートの実施結果 2019. 3/1～3/25 回答者 78人（自由記述は添付資料6）



5. 新たなニーズ・課題

利用者のお母さんたちの中から、ヨガ、ピアノ、モノ作りなど、自分の特技を活かした活動を行いたいという声があがってきています。子育てで中断しているけれど、様々な特技や才能、経験を持った人たちが活躍できる場を作り、お母さんたちが主体となるサークル活動につなげていきたいと思います。

豊富な絵本を活用して読み聞かせの活動をしています。参加者が0～2歳の赤ちゃんと保護者のため、絵本の選定や、プログラム構成も年齢に合わせて工夫しています。絵本は子どもの想像力と豊かな心を育みます。赤ちゃんの時から親子で絵本に親しむことで、家庭でも親子で絵本に親しんでほしいものです。

また、新しく居住したシニアの皆さんも、もっと知り合いを増やして趣味の活動も充実させたいという意向があります。カラオケのサークル立ち上げのお手伝いをしましたが、今後は自主サークルとして活動していく方法もアドバイスしたいと思います。さらに、趣味の活動だけでなく地域に目を向け、地域活動に参加してボランティアとして活動することも勧めていきたいと思っています。

子どもたちはどんどん成長していきます。現在は乳幼児親子の居場所として保護者と一緒に利用していますが、小学生になった子どもたちが自分の育った場所として遊びに来てくれる居場所とすること、その方法や小学生以上の子どもの保護者との関わり方も新たな課題です。

子どもとアートが人をつなぎ、地域をつなぐという当会のコンセプトは、実現までに時間がかかりますが、ZERO キッズのこれまでの活動の中で育ってきた小学生、中学生がこの乳幼児親子の居場所の中で果たす役割があるということも見えてきました。小さい子たちのお兄さんお姉さんとして、成長のモデルとして、高齢者との交流の橋渡し役として、彼らの力が発揮できるはずです。そして、この場で育つ子どもたちが次に続いていくことで、地域の交流がさらに進むことを願っています。

6. まとめ

2018年10月から半年間、乳幼児親子の居場所として「もりのいえ」を開き、マンションの新住民と地域をつなぐことを目標に居場所とイベントの運営を行ってきました。児童館がなく、子育てひろばも少ない地域で、「もりのいえ」はSNSや口コミ等で広がり、毎日20～40組の親子が来館し、毎月1000人を超える親子が利用しました。

このマンション内のキッズルームである「もりのいえ」が、マンション住人だけでなく地域の親子の居場所として認知され、さらに地域内外の多世代交流が進むように事業を継続したいと思います。事業継続のため財政面では利用者には負担にならない程度の実費徴収や、中野区その他の助成金の活用を行っていきます。イベントにも、スタッフにも地域の人材をもっと活用することで、交流も広がっていきます。

「もりのいえ」は、「こどものパワーで地域をつなぎ文化をつくる！」というZEROキッズのコンセプトのもとに運営を行っています。子どもたちが生まれながらに持つ「そうぞう（imagination & creation力）」をさらに伸ばし育む活動を続けながら、世代を繋いでいきたいと思っています。子どもたちの中にこそ、人を繋ぐ力と未来があると思うからです。

民間のマンションの中にあるこの「もりのいえ」を一つのモデルとして、今後、企業が子育てや多世代交流を支援していくことがさらに広がることを願っています。

